

都市構造可視化活用の取り組み

～逗子市地域公共交通計画策定に向けて～



神奈川県 逗子市 環境都市課

1. 逗子市のこれまでの公共交通の取り組み

令和6年度に大幅に方針変更

逗子市内は、鉄道駅が4駅あり、路線バスも市内全域に展開され、比較的公共交通が充実している。ただし、バス停から距離のある高台住宅団地の移動が課題となっており、まずは実際に新たな交通モードを実証してみるという方針のもと、令和3年度にデマンド型乗合いタクシーの実証実験を行う。しかし、本格運行には至らず。



令和6年度に実証実験を行うため、令和5年度に企画し、市議会へ予算提案したものの、予算の承認を得られず。



全市的な課題をしっかりと整理し、腰を据えて事業を組み立てていくため、新たに地域公共交通計画を令和7～8年度かけて策定する方針に変更。

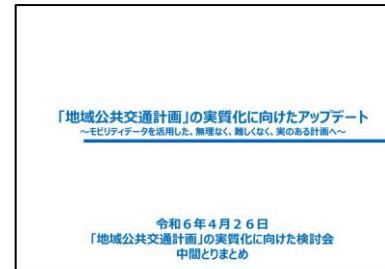
2.都市構造可視化に取り組むきっかけ

地図が持つ伝える力を実感

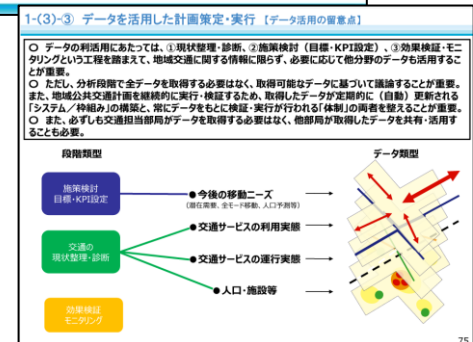
今後の方針を探るべく関係団体へヒアリングにまわった際、前年度の別業務でコンサルが作成した地図を用いて説明したところ、非常に理解が深まった。



国土交通省の「『地域公共交通計画』の実質化に向けたアップデート」の中間とりまとめにおいても、データの活用が大きな柱の一つに。

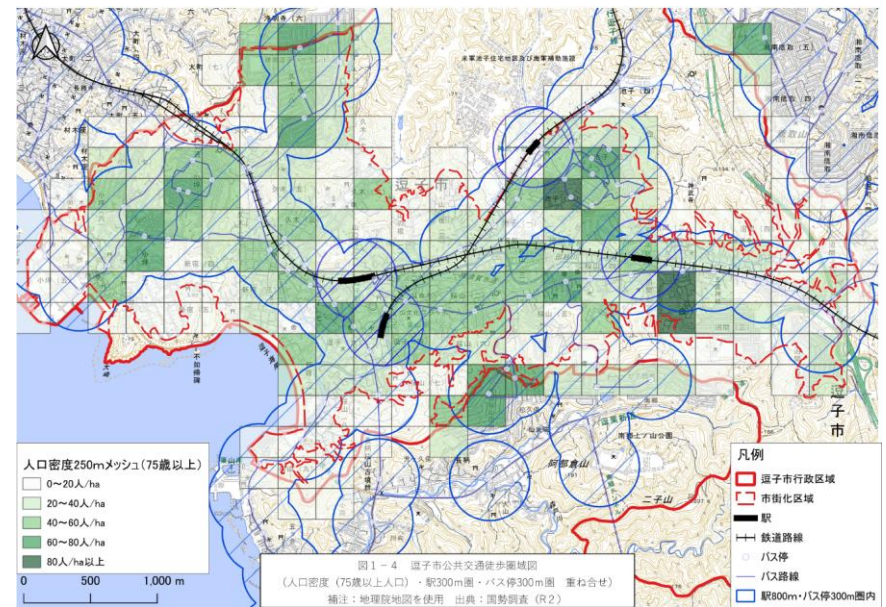
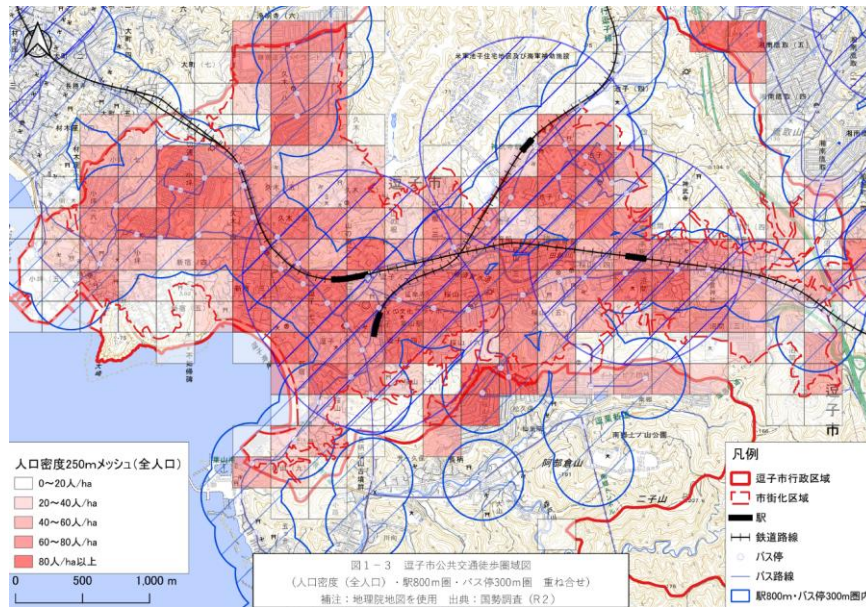


市単独でも一定の図面作成・分析が行えるようになるために、逗子市として初めて本研修に参加。



3.公共交通徒歩圏域の分析

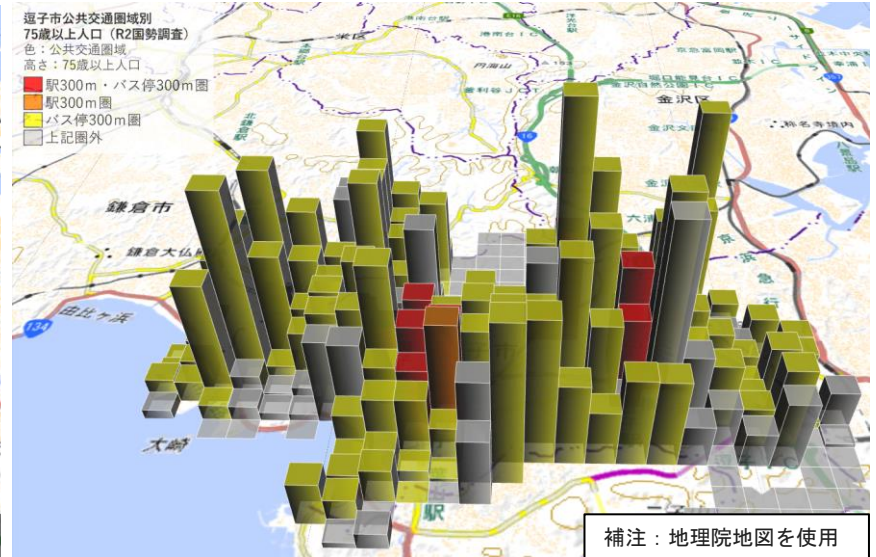
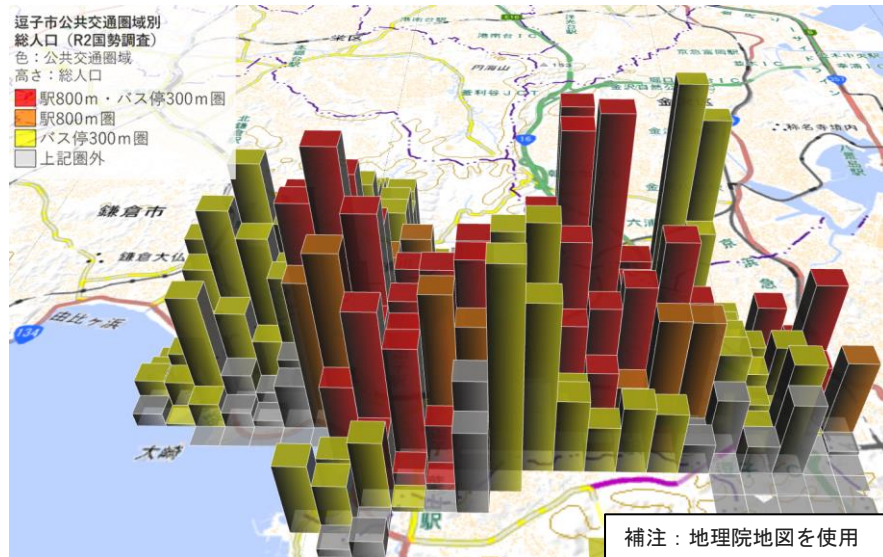
駅・バス停圏域と人口メッシュの重ね合わせ



- 公共交通の徒歩圏として比較的用いられる、鉄道駅から800m、バス停から300mの圏域と、人口密度250mメッシュを重ね合わせ（左図）
- 人口密度250mメッシュの対象年齢を75歳以上に限定し、鉄道駅も300m圏域に変更（右図）

4.公共交通徒歩圏域の分析（続き）

重ね合わせ図を3Dに立ち上げ

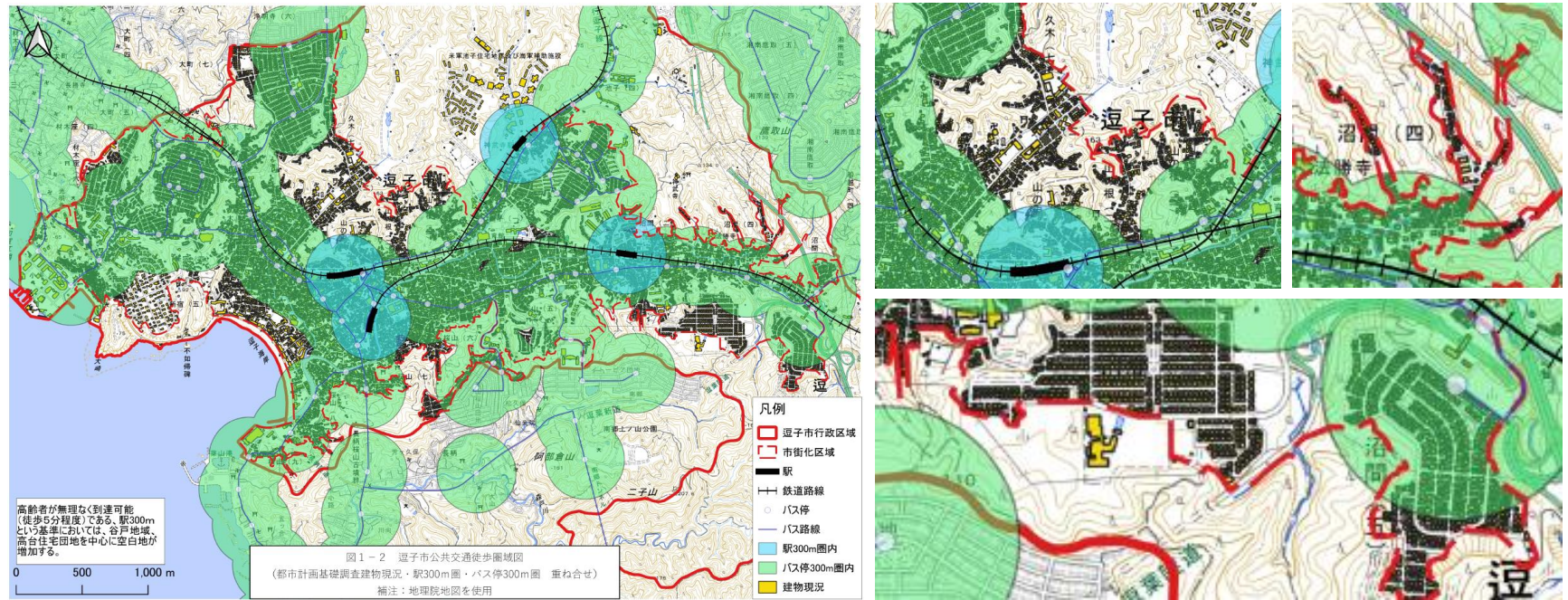


- 前ページの図面を、公共交通圏域は色（駅・バス停圏：赤、駅圏：オレンジ、バス停圏：黄色、圏外：灰色）、人口は高さで、3Dにて表現。
- 全人口と75歳以上人口メッシュの最大高さをそろえることで、人口ボリュームの多い地域が年齢によって変化することがわかる。

市全体のおおまかな課題が把握可能。一方で、まちを歩き、話を聞き、感じた課題やポテンシャルも表現したい。

5.公共交通徒歩圏域の分析（続き）

駅・バス停圏域と都市計画基礎調査データの重ね合わせ

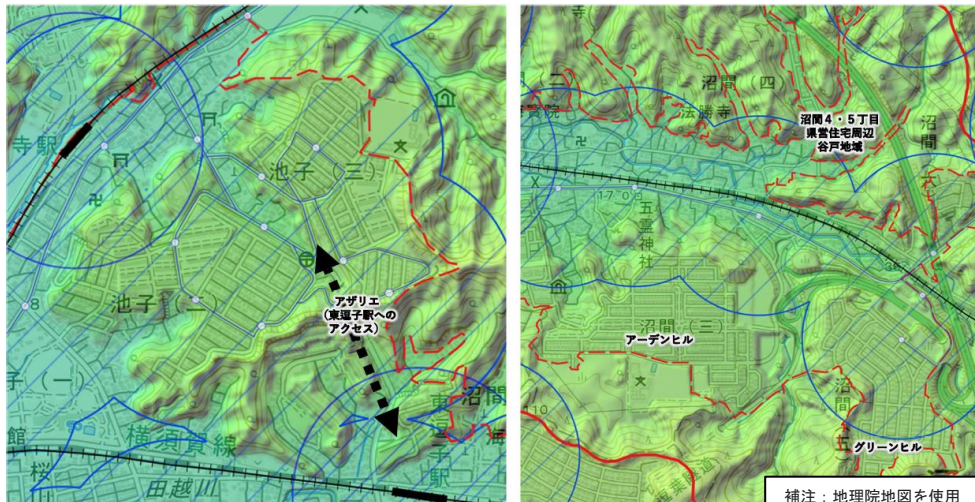
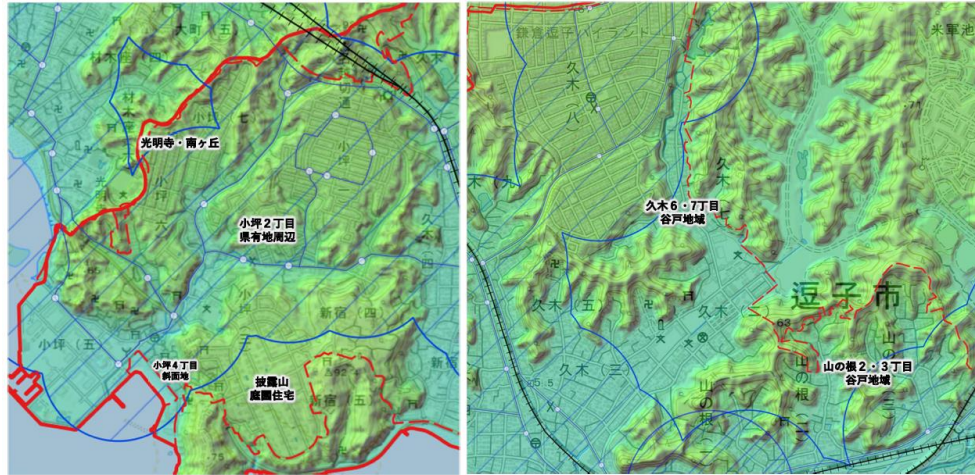


- 都市計画基礎調査の建物現況データを重ね合わせ。
- 公共交通圏域外となる課題を抱える地域は、三浦半島地域特有の谷戸形状の地域と、1960～1970年代に開発された高台住宅団地に大きく分かれる。

まちで見聞きした課題感と一致

6.公共交通徒歩圏域の分析（続き）

ベースマップに地理院地図 色別標高図を使用



補注：地理院地図を使用

- 高低差のある住宅団地の地形を表現するために、色別標高図を使用。
- バス停圏内の地域でも、崖や急こう配の坂道により、移動が困難な状況も可視化。
- ただ、建物現況データも重ね合わせたかったが、色別標高が薄まってしまい、表現しきれなかった所は、今後の課題。

7. 今後に向けて

地域公共交通計画策定における検討にて活用

- 地域公共交通計画策定にかかる国庫補助要望調査の添付資料として、今回作成した図面を活用。
- 計画策定のために令和7年2月に新たに立ち上げる、地域公共交通活性化協議会に会議において、地図を活用した分析・情報共有を積極的にしていきたい。



ただし、可視化によりイメージはしやすくなるものの、机上の作業だけで闇雲に図面を作成すると、誤った課題認識にミスリードする可能性があることも・・・

まちで見聞きし、現場で感じた肌感覚を大切に、
アナログで考え⇒データで検討⇒地図で伝える(可視化)
を踏まえて取り組んでいきたい。